



## 効率化&作業負荷軽減！ 商品配置見直しによる生産性向上

2026年6月30日

作業改善

生産性向上

物流現場において、作業効率化による生産性の向上と作業スタッフの負担軽減は非常に重要なテーマです。

この二つのテーマを考えていくうえで必要なものがあります。

それは、慣れ親しんだこれまでのやり方に留まることなく、現場の作業実態や動線を整理しながら無駄を削ぎ落としていく視点です。

本コラムでご紹介するのは、多種多様な商品を扱う配送センターにおいて、商品の配置を丁寧に見直し、作業中の歩行距離の大幅削減を実現した取組事例です。

この取組で、現場の動きがどのように変わり、生産性に影響したのか。

そして、作業スタッフの負担がどれくらい減ったのか。

その具体的なプロセスについてお話しします。

### 目次

1. 現状分析
2. 課題の抽出
3. Action -出荷頻度に合わせた再配置-
4. ロケーション見直しの成果
5. まとめ

## 1. 現状分析

今回の舞台である配送センターでは、テレビアンテナやセキュリティ機器など、多種多様な商品を、限られた人員で管理しています。

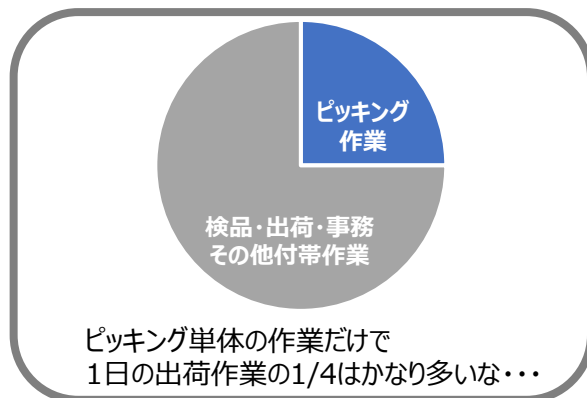
そのため、日々の現場運営が優先され、長年にわたり作業環境や業務プロセスの見直しが行われていない状態でした。

まずはどの作業に着目して改善を進めるべきか判断する必要があります。

1日の作業時間を工程ごとに計測し、着目すべき作業がなにかを調査したところ、

「ピッキング作業」が1日の出荷作業の4分の1を占めることが判明。

生産性の向上や作業環境の改善には、「ピッキング作業」の効率化が必要不可欠であると判断しました。



## 2. 課題の抽出

「ピッキング作業」とは、出荷する商品を保管場所から取り出し、検品や箱詰め（梱包）を行うために、注文内容に応じて商品を取り揃える作業のことです。

つまり、この作業には出荷数量や商品の種類、保管の場所が深く関係しています。

出荷実績や保管状況の分析が課題抽出のカギとなります。

### 【分析によって見つかった課題】

- ①よく出荷される商品が、ピッキング開始位置から遠い場所にある
- ②最も取り出しやすい「棚の3段目（ゴールデンゾーン）」が活用されていない
- ③週1回定期出荷する商品が固定棚にあり、無駄な往復が生まれている

これら3つの課題は、作業時間を増加させるだけでなく、長距離の歩行や取り出しにくい姿勢による身体的負荷にもつながっていました。

そこで、商品の保管場所（ロケーション）を見直すことで、生産性向上と働きやすい作業環境の両立が叶えられるのではないかと考えたのです。

### 3. Action -出荷頻度に合わせた再配置-

では、今度は実際の改善に取り組んでいきます。

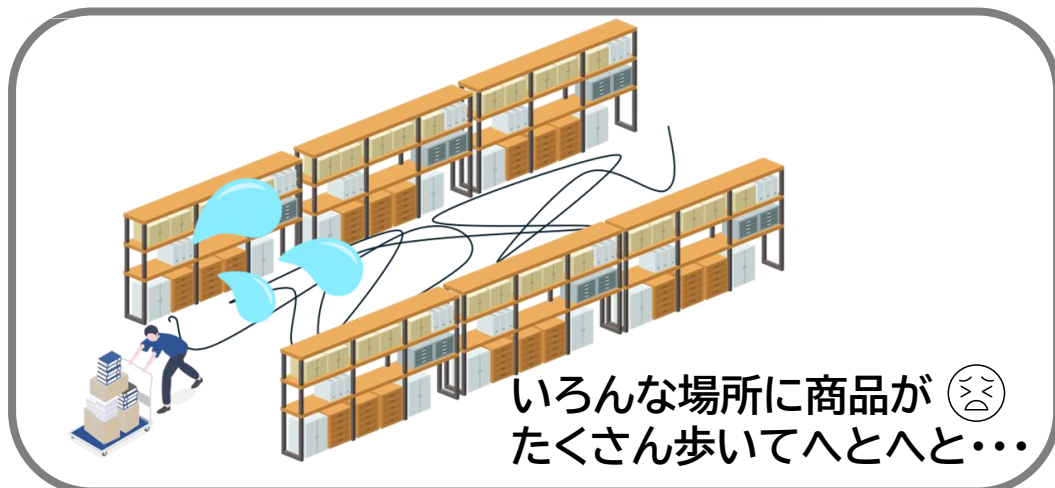
作業の効率化と身体的な負荷軽減を目的として、3つの施策を実行しました。

#### Action 1：最短動線の実現

出荷実績をもとに、ABC分析を行った結果、Aランクの商品が出荷全体の約7割を占めていることが分かりました。そこでこれらの商品を、ピッキングを始める位置のすぐ近くへまとめて配置しました。

これにより、ピッキング時の歩行距離を大幅に削減。

月間約14km分、スタッフの足腰への負担を減らすことに成功しました。



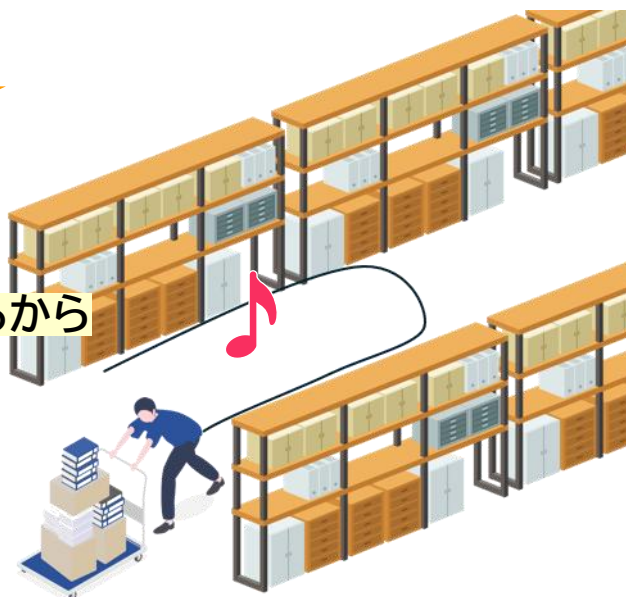
改善後

商品がまとまっているから

作業効率UP

&

疲れにくい！



## Action 2：「ゴールデンゾーン」への集中配置

最も手が届きやすい「軽量棚の3段目」に出荷頻度の高い商品を再配置しました。これにより高頻度品の配置率を13%向上させ、ピッキング作業のスピードアップと身体的な負荷軽減を実現しました。

**改善前：棚の1段目から  
しゃがんでピッキング**



**改善後：3段目に配置し  
楽な姿勢でのピッキング**



## Action 3：出荷周期に応じた管理方法の最適化

週1回の定期出荷がある商品群に対し、固定棚ではなく出荷時に保管場所ごと移動ができる「ロールボックスパレット」による管理を採用しました。普段は動線外に保管してスペースを抑えつつ、出荷時など必要なタイミングで取りやすい位置へ保管場所ごと移動することで、ピッキング時の移動を減らし、作業負荷の軽減につなげました。



**改善後**



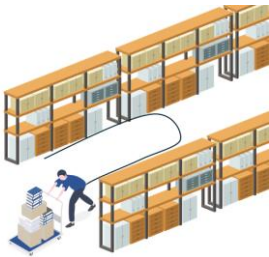
**保管場所ごと移動！**

#### 4. ロケーション見直しの成果

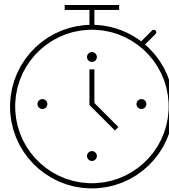
一連の改善活動の結果、ピッキング作業において確かな成果が得られました。

- ① 歩行距離の削減 : 月間のピッキング歩行距離を約14km削減
- ② 作業速度の向上 : 1人当たりの対応可能件数が月間200件増加
- ③ 作業負荷の軽減 : 取り出しやすい高さ（ゴールデンゾーン）への配置比率向上と、歩行距離の削減による身体的な作業負荷の軽減

日々の定常作業だけでなく、負荷の高い特定周期の作業まで最適化したことで、生産性向上と作業負荷軽減の両面で改善効果を得ることができました。



ピッキング歩行距離  
月間 約14km削減



作業速度向上  
1人 月間200件 UP!



身体的な  
作業負荷軽減

#### 5. まとめ

物流現場改善では経験や勘で判断せず、現状を分析し課題を特定することが重要です。

従来のやり方に捉われず、客観的な視点で現場を見直すことが欠かせません。

また、生産性向上だけを追求するのではなく、実際に働く人にとって働きやすい環境づくりも、重要な視点です。

当社では、多角的な視点から状況に合わせた物流改善のご提案をしております。

「作業負荷を減らしたい」

「倉庫運用を見直したい」

そのようなお悩みがございましたら、ぜひお気軽にご相談ください。

＼物流のお悩み、MDロジスにお任せください／



お問い合わせは[こちら](#)